

平成28年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

コンテナ苗の生産技術の確立に取組み、海岸防災林の復旧に貢献

○氏名又は名称 齋藤 豊彦

○所 在 地 宮城県東松島市

○出 品 財 技術・ほ場（苗ほ）

○受 賞 理 由

・地域の概要

東松島市は、宮城県中部の海岸地域に位置し、東は石巻市、南西部は日本三景の一つである特別名勝「松島」の一部となっている。宮城県では、平成23年の東日本大震災の津波で被災した海岸防災林復旧のため、クロマツ苗木の需要が増加している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

齋藤氏は、昭和61年に家業を引き継ぎ、スギやヒノキの優良苗木（裸苗）の生産を行ってきた。しかし、平成23年に東日本大震災の津波により苗畑が被災し、翌年の収支は大きく落ち込んだが、コンテナ苗の生産技術の向上を中心とする経営改善によって苗木生産量を回復し、平成27年は大幅な収益増加となった。近年は海岸防災林の復旧向けのクロマツを主に生産するとともに、少花粉スギの生産にも取り組んでいる。

・受賞者の特色

（１）育苗（苗木生産）期間の短縮

通常2～3年の期間を要する育苗を、施肥の方法を工夫することにより1年間で均質に規格を満たす苗木生産技術を獲得した。

（２）高品質なコンテナ苗生産

全国に先駆けて、平成20年度から新技術であるコンテナ苗生産に着手し、現在では普通苗（裸苗）生産からコンテナ苗生産に完全移行するとともに、根鉢の崩れや根腐れ等を防ぐ生産方法を確立し、優良苗木を供給している。

（３）効率的な生産管理と高い得苗率の実践

苗畑を1箇所を集約し、きめ細やかな管理で90%以上の得苗率を達成するとともに、コンテナの未発芽部分に苗木の芽生えを補植し、未発芽による培土の損失をなくすことで、単位面積当たりの収入増加を図っている。

・普及性と今後の発展方向

齋藤氏は、コンテナ苗生産技術の確立に先駆的に取り組み、全国からの視察を積極的に受け入れているほか、研修講師を務めるなど技術の普及を図っている。

現在主力となっている海岸防災林復旧用のクロマツ需要は中期的なものであることから、新たにカラマツのコンテナ苗生産試験にも着手するなど、中長期的な視野で技術開発に取り組んでおり、その姿勢は全国の模範となるものである。